

この瞬間を全力で
大切に生きることが
考え続けたい

かんの たかあき
菅野 孝明

一般社団法人まちづくりなみえ 事務局次長

昭和44年（1969）、川俣町生まれ。
弘前大学で地質学を学び建設コンサルタント企業に12年、学習塾に8年勤務。
2012年に浪江町復興支援コーディネーターとして採用されて以来、浪江町に
関わり続けている。

東京にいた私は、津波のニュース映像とその後の原発事故の報道に衝撃を受け、「ふるさとがなくなってしまう」と大きな不安を感じました。
震災の翌年、福島に戻りましたが自分に何ができるのか自問自答の毎日。その長いトンネルを抜けたところに、浪江町復興支援コーディネーターの仕事がありました。最初に関わったのは防災集団移転促進事業の立ち上げ。事業の全体像を作り上げた瞬間、「ああ、こうすればいいんだ」と職員たちの表情がパッと変わったのが印象に残っています。計画から建設へと具体的な仕事も動き始め、住民との合意形成もダムづくりに関わった時の経験が役に立ち、一部地域の避難指示解除に向けて約200の事業ヒアリングや、課題解決の支援・予算取りを進めることができました。学習塾で培ったファシリテーションスキルも活かしました。
現在、「道の駅なみえ」を運営する「一般社団法人まちづくりなみえ」で、コミュニティ再生やホープツーリズムなどにも関わっています。
明日の命の保証は誰にもありません。
「この瞬間どれだけ全力で大切に生きることができるか」を常に考えられる自分でありたい。そういう人が増えれば未来はおのずと開けると信じています。



にぎわいを取り戻すため構想から関わった
「道の駅なみえ」は2020年8月にオープンした